

員といつても、中体連で活やくした友だちがほとんどでした。円谷選手は、毎日グラウンドの草むしりをさせられました。夏の草はむしってもまたすぐに生えてきます。広いグラウンドの草むしりは何日もかかりました。

みんなといっしょにトレーニングできないくやしき。なかまのいなさびしき。そんなことを心に強く感じながら、がまん強く草むしりにあせを流しました。グラウンドで走れないなら、家にかえってからやろうと考え、家の近くの農道を走ることにしました。勉強が終わると、毎ばんのように農道で練習をしました。鏡石町まで往復十キロメートルもある長いきよりを雨がふった夜でも休みませんでした。両親もそのことは知っていて、円谷選手のつらい気持ちを考えて何も言いませんでした。

入学式のお母さんから買ってもらった通学用シューズは、いつのまにかはきつぶしてしまいました。

学校へ行くときも走り、かばんをかかえて走る円谷選手の話は、町中の人々の